

連携パターン別kintoneと外部システムの連携方法と選び方のポイント

CSVパターン

連携先の外部システムにCSVの読み込み／書き出し機能が備わっている場合に、本パターンを検討可能です。

- 確認ポイント

確認項目	説明
操作方法	ブラウザや専用クライアントからの操作、コマンドラインなど
フォーマット	値の位置や順番が固定か否か、カラム名の仕様、マッピング対応可否など
実行タイミング	スケジュール実行、トリガ実行など
ファイル入出力場所	PCなどのローカルディスク、クラウドストレージなど
文字コード	Shift-JIS、UTF-8など
その他の仕様・制限事項	改行コード、ファイルサイズ上限、最大行、最大カラムなど

- kintoneからのCSV書き出しと読み出し

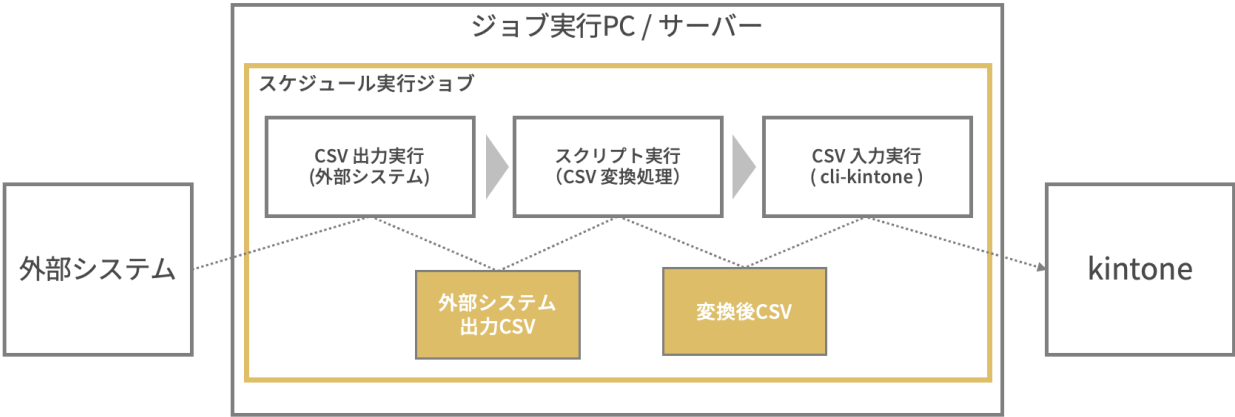
cli-kintoneを使って、CSVファイルをkintoneにアップロード

kintoneコマンドラインツール（cli-kintone）

CSVファイルの制限

- CSV連携の例

以下の例は、外部システムに、CSV出力コマンドが備わっており、ジョブ実行可能なサーバーがある前提としています。



- * 費用：なし
- * 難易度：中継サーバにて外部システムから出力したcsvを処理して、cli-kintoneを利用してアップロード処理を行う

カスタマイズ開発

kintoneは、アプリに対して、JavaScriptによるカスタマイズの実施や、kintone REST APIを使ったプログラムによる外部からのデータ操作が可能となっています。

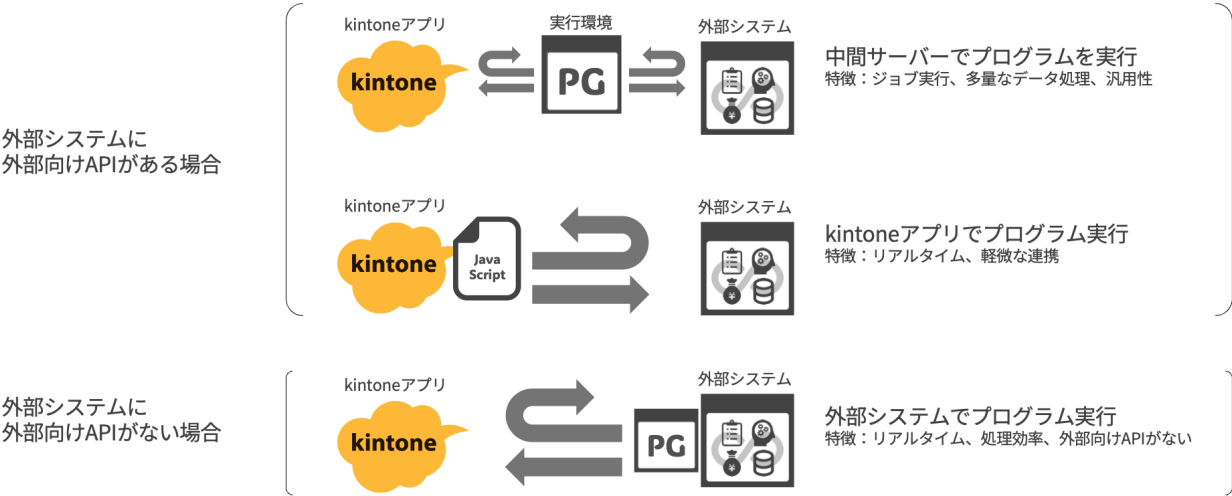
kintone APIドキュメント

- 確認ポイント

確認項目	説明
外部システムの種類	クラウドサービス、パッケージ利用し構築したオンプレミス システム、スクラッチ開発したシステムなど
外部向けAPI	外部システムのデータにアクセスするためのプログラム開発手段の有無確認（APIやSDKなど）
提供元によるカスタマイズ対応	外部向けAPIがない場合に、提供元による機能追加を依頼可能か、また、可能な場合のコストの確認
データベースへの直接アクセス	パッケージやスクラッチ開発の場合、データベースへの直接アクセスが可能かの確認

- 実現方法の例

次に、連携の実現方法を検討します。外部システムに外部向けのAPIが存在するかどうかによって、実現方法が異なります。



- * 費用：なし
- * 難易度：kintone REST APIおよび外部システムAPIを使ったプログラム開発を行う

- * メリット：拡張性が高い

連携製品パターン

kintoneの連携製品は多数あります。要件に応じた製品を利用してください。

kintone - 拡張機能

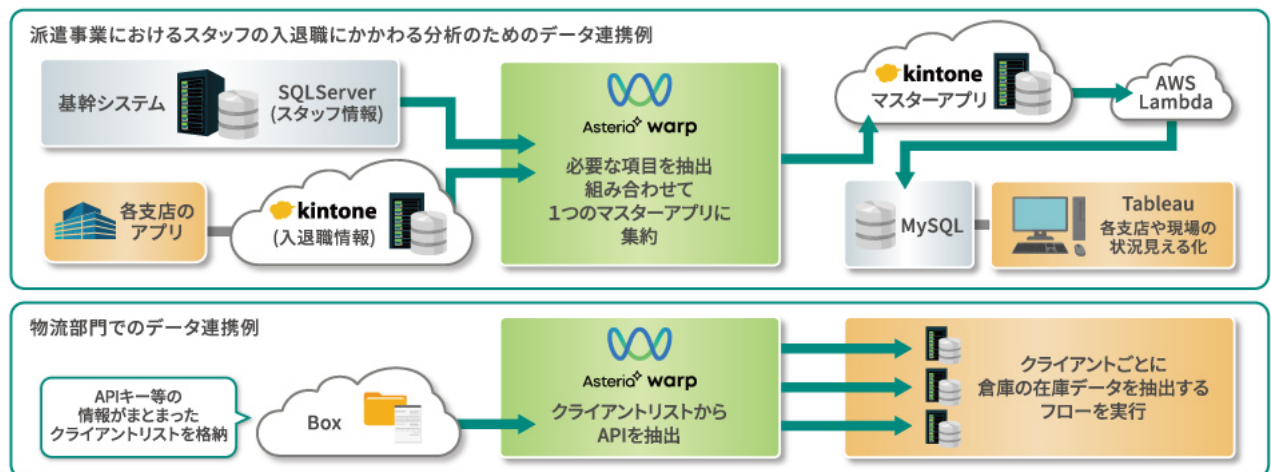
- 拡張機能例は

ASTERIA Warp Core

選定ポイント

- ノーコードの開発環境で、システム連携の仕組みをスピーディーに実装。保守フェーズでの機能追加や改修にも柔軟に対応
- 多様なシステム連携を容易にするアダプターを豊富に用意。現行システムはもちろん、将来的に導入するサービス間の連携ニーズにも対応可能
- 実行中の連携プロセスが障害発生により停止した際も、中断された箇所から再実行・リカバリーが行えるチェックポイント機能が実装されている

製品ドキュメント



費用：月額3万円～24万円

難易度：製品ドキュメントに従って接続する。

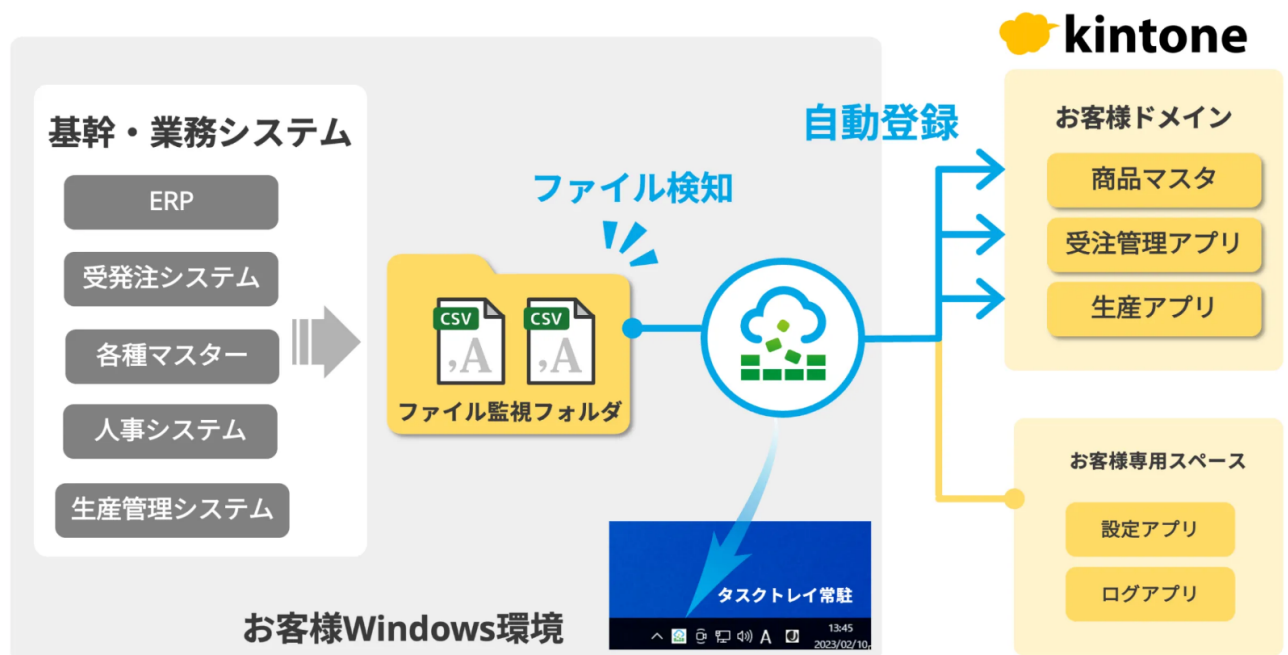
DataSyncer for kintone

公式サイト

選定ポイント

- kintone上のレコードをWindowsへ自動出力します。ソートやカラム名なども細かく制御することが可能です。
- kintone上の添付ファイルも一括でダウンロード可能、ファイル名にフィールド情報を付加できます。

- アプリ内のコメントもCSVファイルで一括出力可能です。
- 保存形式がzipではなく、オリジナルのファイルフォーマットのまま保存されるため、基幹・業務システムへの登録やプリンタへの直接印刷など、様々な連携シーンでの利用が可能です。



初期費用：100,000円

CSV登録機能：120,000円（年間利用料）

PDF登録機能：120,000円（年間利用料）